

四季報 草原灌漑

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業 ニュースレター

Vol.2

2008年3月発行

ニュースレターVol.2 発行

本ニュースレターは「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」で行った活動について、広く関係者の皆様にお知らせすることを目的として、4半期に一回発行しています。

このプロジェクトは2007年6月1日より開始され、主要なC/Pとして中国灌漑排水発展センター（水利部所管）及び、内モンゴル自治区杭锦旗、新疆ウイグル自治区木垒県の現地サイトにて活動しています。

本プロジェクトの活動内容

○プロジェクトのアウトプット

1. 「整備計画」策定マニュアルの作成
2. モデル地区において「整備計画」の効果が検証される
3. 研修コンテンツの完成及び技術者を対象とした研修の開始

「整備計画」策定マニュアルの作成

現在中国では一部の地域において人工草地の建設が進んでいますが、統一的な基準のもとで建設を行っていないため様々な問題が発生しています。

そのため、今回のプロジェクトで中国全土の技術者が人工草地を建設する際に参考となるような計画策定のためのマニュアルを作成することとしています。



モデル地区において「整備計画」の効果が検証される

中国の草原地域では牧民の住居や圃場、灌漑を行うための水源が様々な形態で存在しています。そうした中で効率的な人工草地の建設を行うため、また、節水効果の高い方式とするため、モデル地区を設定し「整備計画(案)」を作成したうえで、節水効果の検証を行う実証試験を行います。



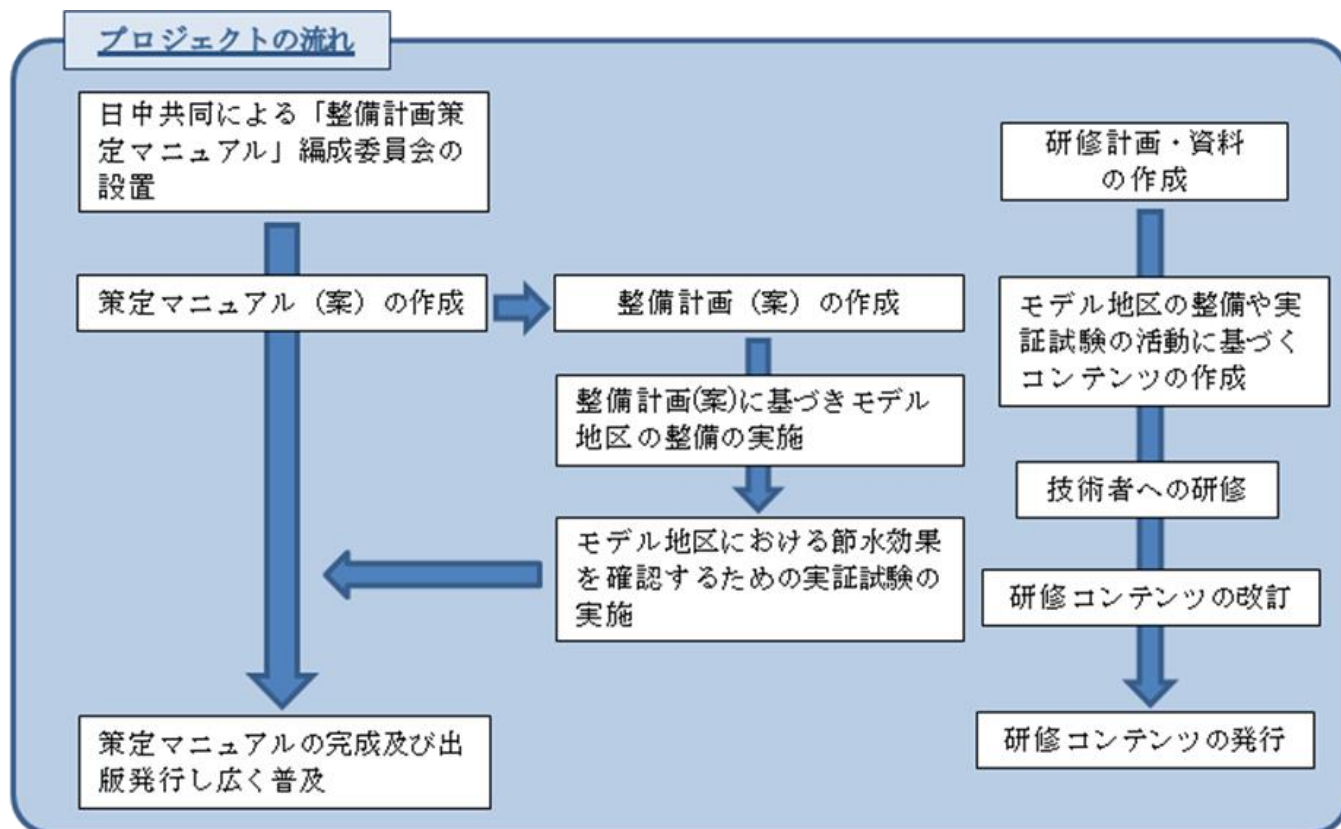
研修コンテンツの完成及び研修の開始

今後、中国の草原地域において人工草地の建設を進めるためには、「整備計画策定マニュアル」の整備だけでなく、そのマニュアルを利用し人工草地の建設を進めていく技術者の育成が必要です。

そのため、本プロジェクトでは今後の人工草地の建設がより加速するよう中国の技術者に対して研修を実施し、その技術力を高めるよう取り組みを進めています。

また、技術者だけでなく、牧民に対しても草原の保全について理解が深まるよう読本の制作を行います。





○最近の活動内容・出来事

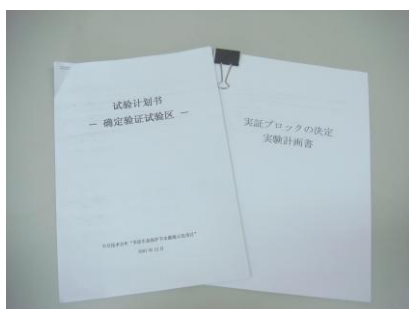
陳雷水利部長のプロジェクト訪問（10月下旬）



（写真右が陳部長）

陳雷水利部長(大臣)が灌漑排水発展センターを視察に訪れました。当日は灌漑センターの業務全般についての会議が開かれましたが、その前にプロジェクトの専門家室にも訪れ、長谷部リーダーよりプロジェクトで作成した牧民向けのパンフレットを手渡しました。陳部長の前職は新疆ウイグル自治区副主席であり、更には以前当プロジェクトの所在地である灌漑センターに主任（所長）で在籍しており、灌漑分野に関して理解があるとのことでした。

実証試験計画の作成（11月～3月）



「整備計画（案）」において整備されるモデルサイトにおいて節水の効果を測定するため実証試験を実施することとしており、そのための実証試験計画(案)を策定しました。5月頃の灌漑開始前までに現地 C/P や実際に営農を行う牧民との意見調整を行っていきます。また、本実験計画の達成をより確かなものとするため、現地の水務局を中心としたモニタリング体制の確立を検討しています。

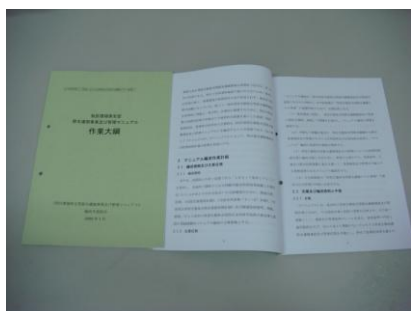
牧民向けカレンダーの作成（11月下旬）



これまで牧民向けの小冊子を作成しましたが、より草原保護について意識が普及するよう草原保護を題目としたカレンダーを作製しました。

現在8万部を印刷しており、広く牧民に配布しています。

「整備計画策定マニュアル」作業大綱・「整備計画(案)」の作成（11月～2月）



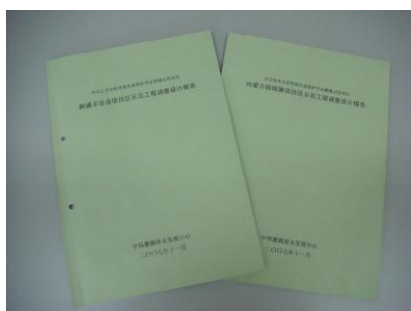
作業大綱(案)は2007年8月に行われた第1回「整備計画」策定マニュアルの編成委員会で決定された項目に基づき、さらに詳細な項目を書き起こしたものとなっており、2008年2月に完成しました。

内容は「整備計画」策定マニュアルの編成の必要性を位置づけたうえで、作業計画や内容についてどのような方針で作成するかを規定しています。

本プロジェクトでは「整備計画」策定マニュアルにより策定される「整備計画」の効果を検証することとしています。

そのため、2008年度より内モンゴル自治区杭錦旗及び新疆ウイグル自治区木垒県のモデルサイトにおいて「整備計画(案)」を作成しました。これに基づいて、実際に現地で節水灌漑モデル地区を設定し牧民により営農を行うこととしています。また、この結果を「整備計画」策定マニュアルに反映するよう検討しています。

(左上：作業大綱、左下：整備計画(案))



第2次運営指導調査団来中国（2月25～3月5日）

2月25日より、日本のJICA本部より2度目の運営指導調査団が来中しました。



(現地の実証圃場)



(現地 C/P との意見交換)

今回の運営指導調査団では今年度の活動の経過、次年度の活動方針の確認、及びプロジェクト開始から半年が過ぎたことによるPDM指標の修正を目的とし、中国側との協議及び内モンゴル自治区杭錦旗の現地サイトを視察・関係者との意見交換を行い、その内容を基に協議覚書を結びました。

「整備計画」策定マニュアル編成委員会作業部会の開催（3月6日）



3月6日に第1回「整備計画」策定マニュアル編成委員会作業部会を開催しました。

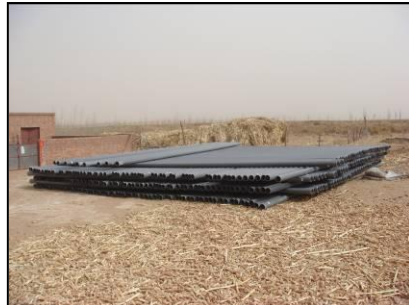
この会議において先に作成した作業大綱(案)を正式なものとして位置づけ、中国側より、各執筆分野の専門家を招集し、作業方針の確認及び各々の執筆分野について確定しました。

内モンゴル・新疆ウイグル自治区実証圃場に配置する供与機材の搬入及び検収

(3月13日～19日)



(スプリンクラーの設置状況)



(搬入した低圧パイプライン)

本プロジェクトの柱の一つとして、実証圃場の整備による整備計画の有効性の検証があります。今回内モンゴル自治区杭錦旗及び新疆ウイグル自治区木垒県の実証圃場において、供与機材として節水灌漑設備を導入しました。

この設備は先に述べた「整備計画(案)」に基づき配置計画を作成しています。5月以降に灌漑が始まりますが、この実証圃場において実証試験を行い、節水効果の測定や収量の変化を測定すると共に、牧民自ら施設の管理を行う中で、どのような課題が発生するかを検証を行います。

編集後記：

冬の間、地道にプロジェクトを進めた結果、春からの実証圃場のめどがつかまりました。施設が入り、両施設を牧民が使用することによってどのような変化が生じるかを検証することとしていますが、現地を見る限りでは確実な節水が図られるのではないかと考えています。

今年度の確実な実証を踏まえ、さらにマニュアル編成の速度を加速していきたいと思えます。

プロジェクト所在地

北京市宣武区广安門南街 60 号 榮寧園 3 号楼 中国灌漑排水発展中心日本専家室

Tel : +86-10-6320-3380、FAX : +86-10-3376 e-mail : taka316318@hotmail.co.jp

担当：東 崇史